

受け継ぐ伝統と自然



大島の傘踊り

毎年8月14日に開催される納涼の夕べで演じられる。大島小学校の児童たちも、日頃の練習の成果を披露する。



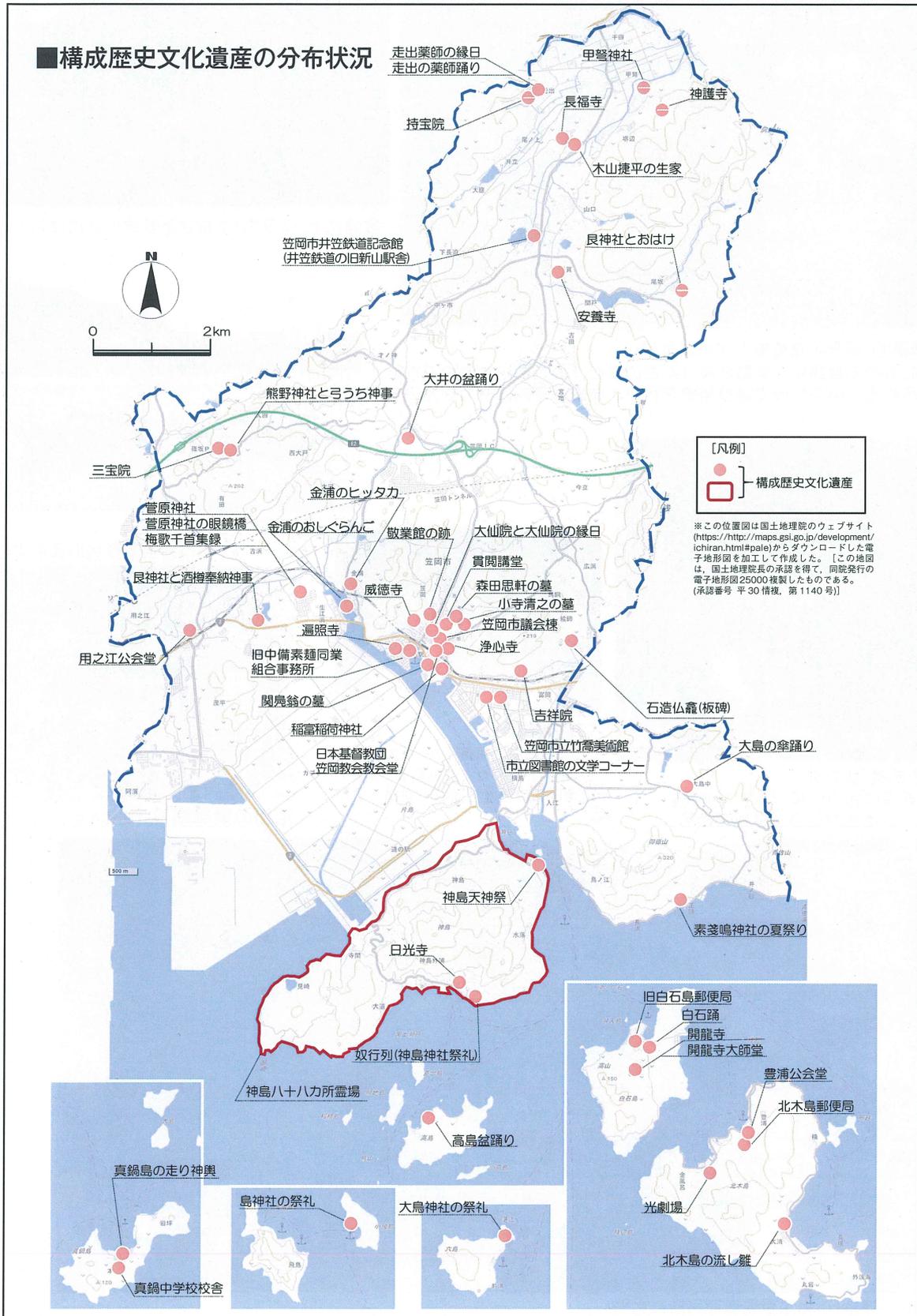
カブトガニの幼生

カブトガニ博物館の学芸員が、カブトガニの幼生を子どもたちに見せている。(カブトガニは熱に弱いので、ここでは学芸員が細心の注意を払って触れている。)

(1) 伝統を受け継ぐ

地域の人たちの生活の中に、伝統行事や信仰が身近にあります。市域の南は瀬戸内の海に抱かれ、北には緩やかな丘陵が広がる笠岡市には、地域ごとに特色のある伝統行事が引き継がれてきました。また、歴史ある寺社や遍路道など、古くからあるものが残されて守り伝えられています。

こうして伝え残されてきたものが笠岡市の魅力であり、それを大切に守り次の世代のために引き継いでいこうとしている人たちこそが財産です。



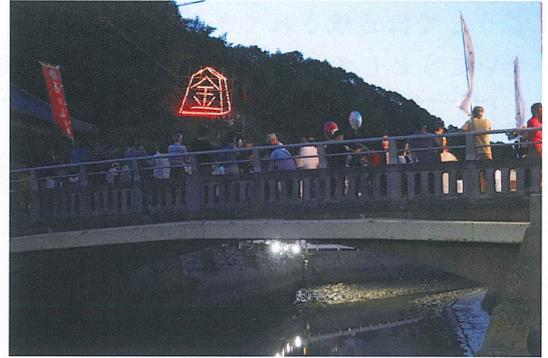
心をつなぐ伝統行事

お祭りや盆踊りなどの伝統行事は、地域の人たちが協力し合って行い、後継者を育成することなどを通じて地域や世代間の結びつきをより深めることができる場となっています。そうした行事は、それぞれの地区を象徴するものであり、たとえ笠岡を離れても故郷とのつながりを感じる、心のよりどころとなる存在になっています。



大島の傘踊り(県指定重要無形民俗文化財)

大島地区に伝わる盆踊り。新暦8月14日の夜に「ふれあい納涼の夕べ」の中で踊られる。小中学校で踊り指導を行い、後継者育成にも力を注いでいる。



金浦のヒッタカ(市指定重要無形民俗文化財)



金浦のおしくらんご

(市指定重要無形民俗文化財)



神島神社祭礼(奴行列)

道中で槍を投げ合う「投げ奴」が特徴。小学校5・6年生が行う子供奴もある。



大井の盆踊り

夏には小規模な盆踊りが、地域のどこかで開催されるところもある。写真では、地区の観音堂で盆踊りを踊っている。



走出の薬師踊り [昭和初期]



神島天神祭(市指定重要無形民俗文化財)

神島7地区の千歳樂が天神社に集まる秋祭り。船で神社に入ってくる海上渡御の伝統が残る。

島の伝統行事

笠岡諸島では、海との強い結びつきが見てとれる伝統行事が行われています。古くは平安時代の終わりに瀬戸内海一帯で繰り広げられた源平合戦に起源を持つと言われる行事もあり、笠岡市の置かれた地理的・歴史的環境を反映しています。また、島には、古い伝統を残した行事があり、大切に受け継がれています。



白石踊(国指定重要無形民俗文化財)

白石島で古くから伝わる盆踊り。一つの音頭で何種類もの踊りを踊るのが特徴。



真鍋島の走り神輿(八幡神社の祭礼)(市指定重要無形民俗文化財)

(左：八幡神社で行われる獅子舞 中央：神輿が船で渡る海上渡御 右：島の通りを駆け抜ける「走り神輿」)



六島の大鳥神社の祭礼

宵宮で太鼓ぶちと獅子舞が行われる。本宮では、神輿の綱を持って、走りながら回す。



北木島の流し雛(市指定重要無形民俗文化財)

旧暦の3月3日に、船に乗せた紙雛を浜辺から海に流す。

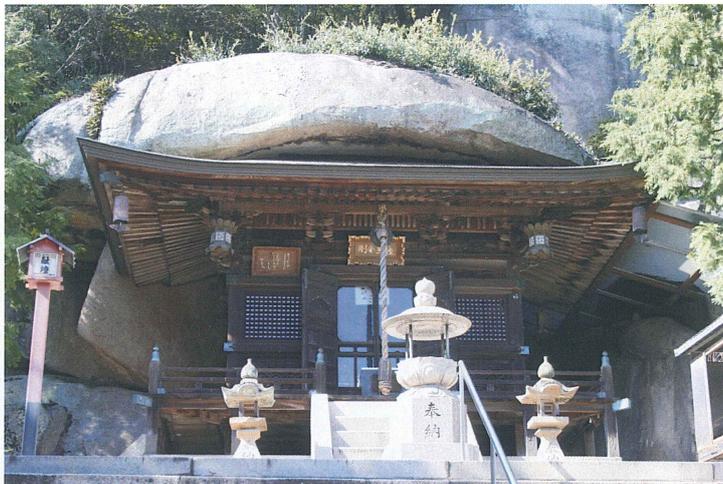


高島盆踊り

扇を持って踊る優雅な盆踊り。

地域に根づく信仰

備中を代表する霊場の神島八十八カ所霊場を筆頭に、各地区に残る地域霊場、そして神社も地域の人たちの手で大切にされてきました。また、遍路道に沿って小さな祠や石仏があり、それを掃除してお守りしている人たちがいます。地域の人々が楽しみにしている縁日が催されるお寺もあり、地域信仰の場が身近に感じられています。



神島八十八カ所霊場(左：32番札所 右：奥の院は白石島の開龍寺の大師堂)
 地元の人たちの手で「神島八十八カ所ガイドブック」が作成されている。遍路道としてだけでなくハイキングのコースとしてく人もいます。また、公民館の協力を得て、地元の小学生たちが6年間かけて全ての札所をめぐる取り組みを行っている。



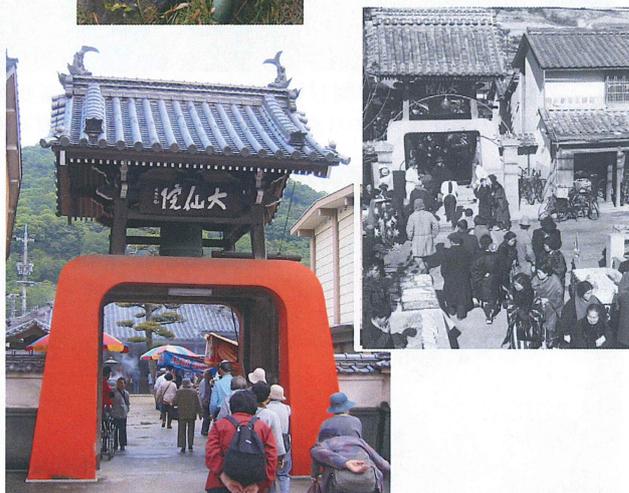
甲弩神社(拝殿は市指定重要文化財)



石造仏龕(市指定重要文化財)
 路傍にたたずむ高さ1m足らずの小さな仏様。



神護寺本堂(県指定重要文化財)
 笠岡市内最古級の木造建築物で、室町時代の終わりに、笠岡市北部を治めていた武将によって建てられた。



大仙院の縁日

(左上：平成19年(2007)頃の様子 右上：昭和30年代の様子
 右下：商店街の「おかげ市」)
 昭和30年代には、縁日は身動きできないほどの人出でにぎわった。近年は縁日に合わせて、商店街で「おかげ市」が開催されている。

先人の遺産を受け継ぐ活動

身近にある古いものを大事にする気持ちが強く、近代化建築が学校の校舎や公共施設、店舗などとして現役で活躍し、それが地域を象徴する建造物にもなっています。近年は、古民家を活用して地域おこしの活動を始めた若者もいます。また、市民にとって、地域の先人たちは誇りであり、その顕彰活動も積極的に行われています。



北木島郵便局

大正12年(1923)に建築された郵便局舎。大きな改修がされることなく、今も現役の局舎として使われている。



用之江公会堂

旧城見村役場の建物で、昭和初期に建築された。現在は、地元の人が集う公会堂となっている。



貫閣講堂

昭和17年(1942)に、旧笠岡町男子・女子国民学校の講堂として建築。現在も笠岡小学校で、入学式や卒業式などの行事に使われている。



北木島の光劇場

北木石に昭和20年代~40年代頃まで営業されていた映画館。施設が、ほぼ当時のままの状況が残っている。ツアーで島を訪れる人たち向けに、北木石の歴史や文化を伝える映像を上映している。



神島の旧庄屋敷

空き家となっていた、築約200年の庄屋だった家の邸宅を活用して、イベントを開催したり、カフェを営業したりしている。



木山捷平の生家

山口地区にある捷平の生家。



市立図書館の森田思軒顕彰碑

図書館には顕彰碑以外に、森田思軒文学コーナーもある。



森田思軒顕彰講演会

毎年11月に、明治の翻訳王と称された森田思軒の功績を顕彰するために講演会を開催している。



市立図書館の木山捷平コーナー

捷平の遺族から寄贈された資料やゆかりの品が展示されている。



笠岡市立竹喬美術館

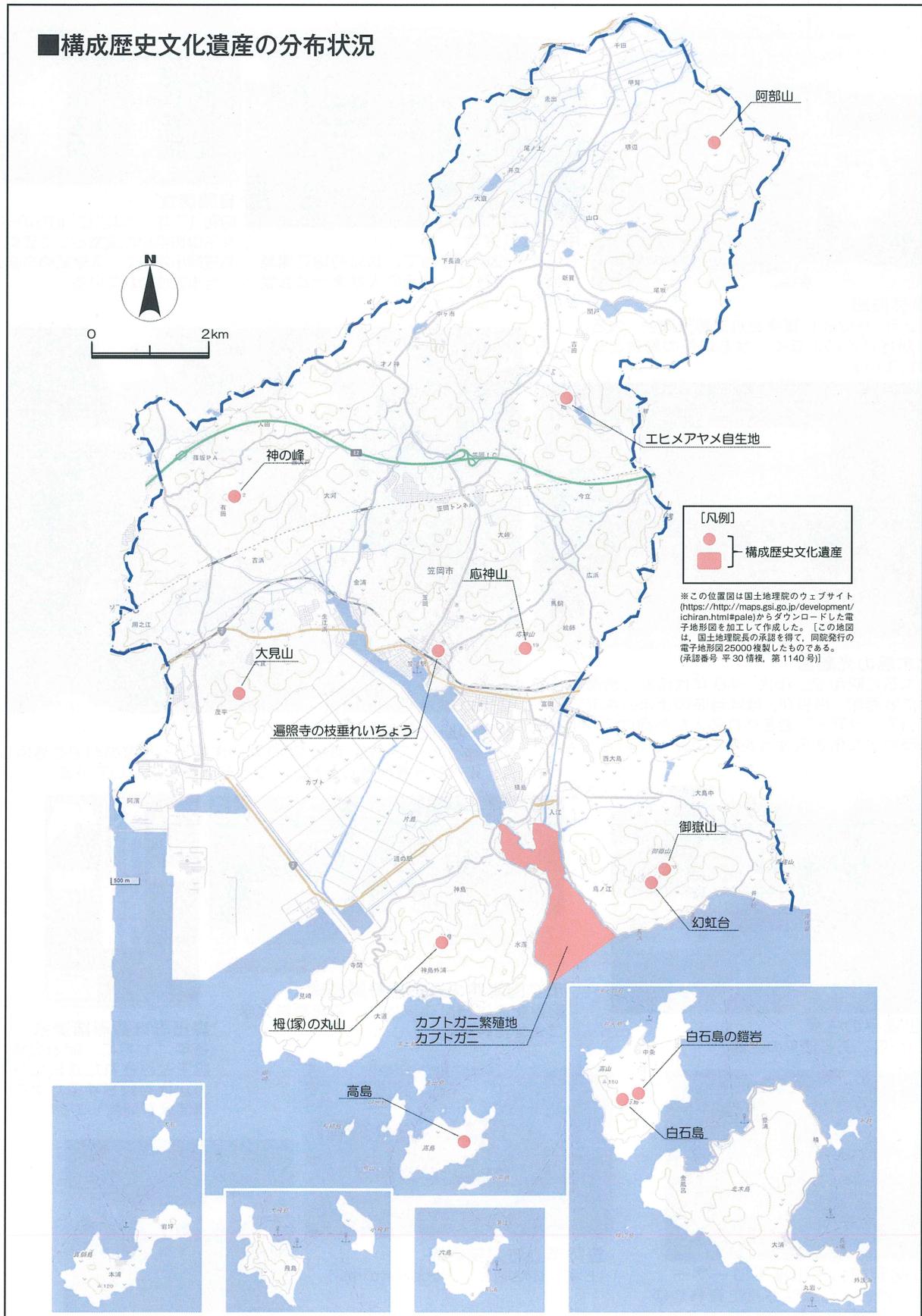
(上:美術館の外観、右:特別陳列の様子)



(2)豊かな自然と美しい景観

多島美を誇る瀬戸内海から、北部の低丘陵まで、笠岡市には多様な自然環境や景観があります。そこに生息する動植物を守る取り組みが行われ、自然環境保全活動につながっています。

瀬戸内海の景観は、訪れる景勝地として古くから人々を魅了してきました。美しい風景やそれを眺望する場所を活用した地域の人たちによる取り組みが広がりを見せています。



地域で育む自然

笠岡の海に残された干潟は、日本でも2か所しかない国の天然記念物に指定されたカブトガニの繁殖地です。カブトガニが生息する海を美しい環境の象徴として、市民や行政などが協力して保全に努めています。アマモの藻場やエヒメアヤメなど、市民が積極的に動植物の保全活動にたずさわっています。



カブトガニ保護啓発運動



カブトガニの幼生の放流
カブトガニの数を増やすために、毎年幼生の放流を行っている。

カブトガニ繁殖地(国指定天然記念物)

繁殖地となっている干潟は、カブトガニが産卵し、ふ化した幼生が成長するために必要不可欠。(カブトガニは、その姿を2億年前からほとんど変えていないことから「生きている化石」と呼ばれている。カニではなく、クモ・サソリに近い生物)



アマモの藻場の再生活動

アマモの藻場は、魚の産卵場所や稚魚が育つ場所となっている。アマモは環境の悪化によって激減したが、藻場が再生すれば豊かな海も戻ってくる。



エヒメアヤメ

エヒメアヤメ自生地が市の天然記念物に指定されており、保存団体が中心となって、自生地の保全を行っている。



遍照寺の枝垂れいちろう(市指定天然記念物) 笠岡の町の中心にある。笠岡市のシンボリックな巨木。

笠岡市の風景

瀬戸内海国立公園の中にあり多島美の景観が魅力の笠岡諸島。また、花崗岩で形成された笠岡諸島の島々では、露出した白い岩肌、遊歩道の傍らにある奇岩や巨石など、見応えのある景観を作り出しています。

瀬戸内海を南に、なだらかな丘陵を北に持つ笠岡市には、眺望の良い山が多くあります。海沿いには、広島県福山市の鞆や水島灘を広く望める場所もあり、海を介せば地理的に近距離にあることを感じられます。



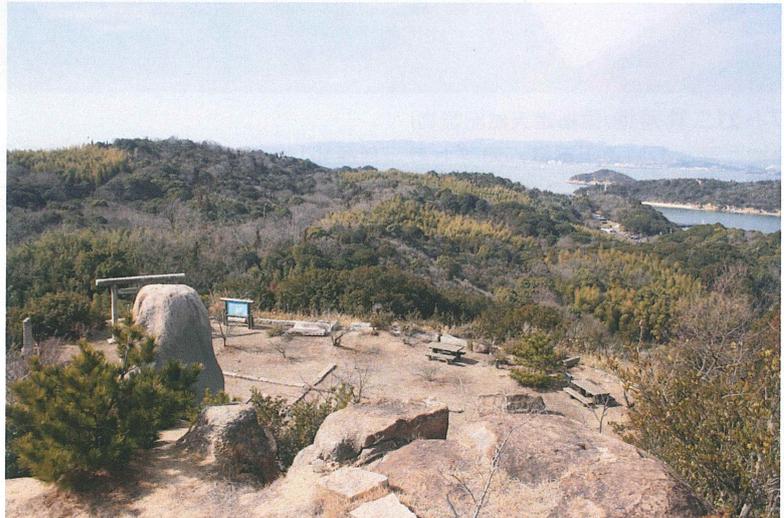
御嶽山の幻虹台から笠岡諸島を望む
「瀬戸内海国立公園の絶好の展望台」と称賛された。



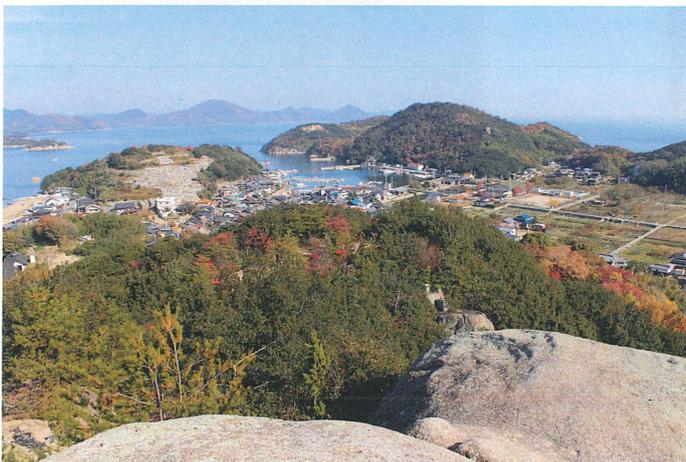
御嶽山から福山市を望む
笠岡湾干拓地の奥に、福山市街地が見える。



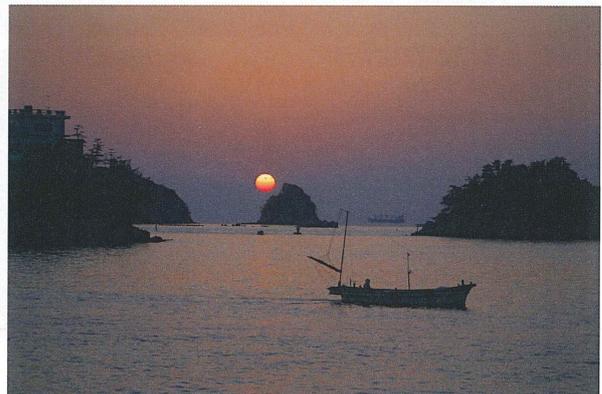
白石島の鎧岩(国指定天然記念物)



名勝高島(国指定名勝)



名勝白石島(国指定名勝)



白石島から見た冬の夕日

参考文献一覧（主要な資料のみを掲載）

1 笠岡市史

（原始時代から現代までの笠岡市の歴史が網羅的かつ詳細に記述されており、郷土の歴史を深く知ることができます。）

- ・笠岡市史第一巻 [昭和 58 年 (1983)] 編集:笠岡市史編さん室 発行:笠岡市
- ・笠岡市史第二巻 [平成元年 (1989)] 編集:笠岡市史編さん室 発行:笠岡市
- ・笠岡市史第三巻 [平成 8 年 (1996)] 編集:笠岡市史編さん室 発行:笠岡市
- ・笠岡市史第四巻 [平成 15 年 (2003)] 編集:笠岡市史編さん室 発行:笠岡市
- ・笠岡市史史料編上巻 [平成 11 年 (1999)] 編集:笠岡市史編さん室 発行:笠岡市
- ・笠岡市史史料編中巻 [平成 13 年 (2001)] 編集:笠岡市史編さん室 発行:笠岡市
- ・笠岡市史史料編下巻 [平成 14 年 (2002)] 編集:笠岡市史編さん室 発行:笠岡市
- ・笠岡市史地名編 [平成 16 年 (2004)] 編集:笠岡市史編さん室 発行:笠岡市

2 笠岡市の歴史や文化財に関する本

（笠岡市の文化財や歴史などがコンパクトにまとまった概説書。写真や図が多いので、入門書としても楽しめます。）

- ・笠岡の造形 [平成 15 年 (2003)] 編集:上菌四郎・徳山亜希子 発行:笠岡市立竹喬美術館
- ・笠岡の文化財 [平成 16 年 (2004)] 編集:笠岡市教育委員会文化課 発行:笠岡市教育委員会
- ・笠岡ふるさとガイド [平成 19 年 (2007)] 編集:笠岡クイズ王選手権テキスト・問題作成委員会 発行:笠岡市
- ・今昔写真集「笠岡今はむかし物語」 [平成 25 年 (2013)] 発行:この指とまれネットワーク委員会
- ・見たい！知りたい！もっと笠岡文化財めぐりハンドブック [平成 27 年 (2015)] 編集・発行:笠岡市教育委員会
- ・図説井原・笠岡・浅口の歴史 [平成 21 年 (2009)] 発行:株式会社郷土出版社

3 笠岡市内各地区の郷土史や文化財に関する本

（市内各地区の地域の人たちが、地元の歴史や文化財を丁寧に調べて作成した冊子です。近年刊行されたものを中心に掲載しています。お住いの地域の文化財巡りなどにも使えます。）

- ・北川の史跡ガイドブック [平成 27 年 (2015)] 編集:北川の昔を訪ねる会編集委員会 発行:北川まちづくり協議会
- ・伝えたいわがふるさとの文化財－にいやまの文化財マップ解説書－ [平成 25 年 (2013)]
発行:にいやまの「文化を楽しみ育てる会」
- ・ふるさと「よしだの史跡」－探訪のてびき－ [平成 5 年 (1993)] 発行:吉田公民館吉田地区まちづくり推進委員会
- ・今井地区歴史を語る遺跡と文化財 発行:今井公民館
- ・笠岡の歴史散見集 [平成 28 年 (2016)] 編集・発行:笠岡町の歴史を知る会
- ・ふるさと探訪 [平成 25 年 (2013)] 編集:ふるさと探訪実行委員会 発行:笠岡東公民館
- ・ガイドブック陶山 100 選 [平成 27 年 (2015)] 発行:陶山地区みんなが輝くまちづくり協議会観光開発部
- ・孫たちに語りつぎたい金浦 [平成 25 年 (2013)] 編集・発行:金浦地区まちづくり自治協議会
金浦歴史研究会金浦公民館
- ・城見のあゆみ移り変わる文化と歴史 [平成 29 年 (2017)] 発行:城見地区まちづくり協議会
- ・大島歴史散歩 [平成 26 年 (2014)] 編集:大島まちづくり協議会歴史観光部・教育文化部「大島歴史散歩」編集委員会 発行:大島まちづくり協議会
- ・神島史誌 [昭和 61 年 (1986)] 編集:広沢澄郎 発行:神島協議会
- ・ふるさと読本「北木を語る」－鳥と石と人の営み－ [平成 8 年 (1996)] 編集・発行:元気ユニオン in 北木
- ・白石島ガイドブック 発行:白石島公民館
- ・まなべしまの史跡 [平成 11 年 (1999)]
- ・ふるさと読本ひしま 発行:笠岡市立飛鳥小学校

おわりに

多くの市民の皆さまに参加していただき、「笠岡市歴史文化基本構想」が完成しました。歴史文化基本構想を手にした方は、笠岡市には長きにわたる歴史と豊かな歴史文化遺産があることに、あらためてお気づきになったのではないのでしょうか。また、これまで何げなく見ていたまちの風景の中にも、歴史的な意味があると感じられたのではないのでしょうか。この構想が、市民の皆さまが笠岡市の歴史文化をより身近に感じるようになり、郷土のことをもっと知ってみようと思うきっかけとなれば幸いです。

さらに、この構想が契機となって、皆さまのお住まいの地域で更なる歴史文化遺産の掘り起こしや顕彰、保護活動や活用などの取組を始めてみたいという機運が高まることになれば、構想策定の目的は達成されていくことになるでしょう。こうした取組が、笠岡市の歴史文化をさらに輝かせ、地域を盛り上げていく力になっていきます。今後も、笠岡市の歴史文化の継承には、ますます皆さまのお力が必要となってきます。力をあわせて、地域の歴史文化を守り、次の世代に伝えていきましょう。

平成 31 年 (2019) 3 月

例 言

- 1 本構想は、11名による歴史文化基本構想策定委員会を組織し、文化庁の指導及び関係部局の助言を得ながら、笠岡市教育委員会生涯学習課が事務局となり、平成28年度から平成30年度にかけて策定した。
- 2 本構想の策定にあたり、文化庁の「平成29年度文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）」及び「平成30年度文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）」を活用した。
- 3 本書の執筆及び図の作成は、笠岡市教育委員会生涯学習課とランドブレイン株式会社が共同で行い、編集は笠岡市教育委員会生涯学習課が行った。
- 4 本書に掲載した資料や写真において出典・所蔵者を明記したもの以外は、原則として笠岡市及び笠岡市教育委員会が所蔵しているものである。

笠岡市歴史文化基本構想

平成31年（2019）3月

編 集：笠岡市教育委員会 生涯学習課

〒714-0081 笠岡市笠岡 1866-1

